

太田市議会
議長 岩崎 喜久雄 様

令和4年12月27日(火)
公明クラブ代表 高橋 えみ

会派行政視察報告書

- 1、 期間 令和4年10月6日(木)～10月7日(金)までの2日間
- 2、 視察先及び視察事項
10月6日(木) 大阪府池田市 「スマイルファクトリー」
10月7日(金) 静岡県藤枝市 「サッカーを核としたまちづくり」
- 3、 参加者 星野 一広 高橋 えみ 前田 純也
- 4、 池田市概要
面積 22.14 km²
推計人口 103,666 人
条例定数 22 人
政務活動費 月額5万円×12か月×所属議員数

5 大阪府池田市「スマイルファクトリー」について

○ 目的

本市においても不登校の児童生徒数は増加傾向にある。公設民営のフリースクール「スマイルファクトリー」を視察し、本市における平等且つ新たな学びの場となるような取り組みと小中学校とフリースクールの連携について意見交換するとともに今後の参考にするため。

○ 概要

池田市の中心部より車で20分のところにある旧伏尾台小学校北校舎を利用。2003年9月から、市教育委員会から特定非営利法人トイボックスに委託をすることで事業開始。2004年から市の課外教育活動施設「山の家」を活動場所として小中学生を対象に実施された日本初の公設民営フリースクール。2007年には通信制高校と連携した家庭科の技能連携校も新設し、6才から20才までの約70人が市内外から通っている。

スタッフの体制は、全体で約30名、毎日7～8名が交代で勤務。スタッフも経歴豊かな方が多く、池田市が年間約2000万円の予算をかけて子どもたちを

支えている。

○ 所感

安全な居場所、生きる力を育む場所が活動方針として、体験・経験値を増やし、想像する力、チャレンジできる力をつけ、自他への肯定感を高めることを目標とし、一人ひとりにあった学習方法・コミュニケーション方法を一緒に探し、多様な子どもたちの才能を伸ばそうと、とても丁寧なかかわりをしている点が素晴らしいと感じた。

学校内の児童生徒の様子を拝見し、帰りの会でその日にクラスメイトの良かった点を発言する時間があった。お互いに良いと感じた振る舞いについて、思っても言葉にしなければ伝わらないため、お互いを認め合うとても良い取り組みであると感じた。

また、小中学校との連携もとても良好で、スマイルファクトリーのスタッフと各学校の担任の連携がよく、児童生徒はスマイルファクトリーと学校を行き来しながら通学している児童生徒もいる。そういった点も子どもたちの安心感につながっていると感じた。

今回の視察先でフリースクールが「公教育の補完」から「多様な学びの場の選択肢のひとつ」になっていることを学び、本市においてもフリースクールが更なる学びの場としての充実を図っていくこと。そして更なる学校との連携強化が必要と感じた。



6. 藤枝市概要

面積 194.06 km²

推計人口	139.036 人
条例定数	22 人
政務活動費	一人当たり年間 30 万円

7. 静岡県藤枝市「サッカーを核としたまちづくり」について

○ 目的

本市は群馬クレインサンダーズ・太田市・株式会社オープンハウスと三位一体となってB1基準を満たす新市民体育館（「OTA ARENA(仮称)」）の建設がスタートし、スポーツを核とした活気あるまちづくりを目指している。藤枝市のサッカーを核としたまちづくりの取り組みについて学び、参考とするため。

○ 概要

藤枝市のサッカーの歴史は長く、数々の全国大会で輝かしい成績を収め、サッカー界に多くの優秀な人材を輩出してきた。蹴球（しゅうきゅう）と呼ばれていた時代から約100年にわたりサッカーに親しんできた歴史をもつ。

サッカーはスポーツという枠を超えた文化となっている。藤枝市のサッカーにおける深い歴史に敬意と誇りを持ちつつ、未来に向けて単なる「サッカーのまち」ではなく、サッカーにおける長い歴史に支えられた「蹴球都市」を宣言し、次の100年に向けた歩みを進めている。

○ 所感

藤枝市はサッカーを知る人なら誰もが知る高校があり、サッカー日本代表選手を排出し、サッカーを核としたまちづくりを進めている。市民の中でもサッカーに親しんでもらえるように様々なイベントを開催している。

サッカーのまち藤枝を戦略的に、より具体的にしていくため2009年に「サッカーのまち藤枝ドリームプラン」を策定している。この計画に則り、誘致活動を行い、U-16 日本代表のキャンプや皇后杯全日本女子サッカー選手権大会、全国シニアサッカー大会などのハイレベルな試合を身近で観戦できる機会を作っている。また、藤枝市出身で過去に日本代表キャプテンを務めた長谷部誠選手の応援企画を行うなど市民が一体となれる環境づくりを行ってきた。

本市のバスケットを核とした街づくりは始まったばかりであるため、藤枝市のようにはいかないが、藤枝駅を降りてすぐに「蹴球都市・藤枝」の横断幕や旗が掲げられており、こういった雰囲気づくりをしていくことは真似できるのではないかと思う。

今後、クレインサンダーズのホームタウンとして、アリーナが完成していくことで、「バスケットのまちおおた」として、多くの市民にバスケットに親しん

でもらい、太田市出身のプロバスケット選手を輩出できたら、よりバスケットが身近になると感じた。

藤枝市の視察を通じ、改めてスポーツが健康と結びついていること、スポーツには普遍性があり、ルールに基づき言語とは違って、世界共通のコミュニケーションが可能であり、スポーツを通じて多くの人とのふれあいが可能な事。スポーツには「する」だけでなく、「観る」楽しみがあり、またボランティア等で「支える」という参加もスポーツならではの特徴といえる事を学んだ。

スポーツを通じて、市民の健康の増進、そして地域・市民が盛り上がり、内外の市民の交流の場になれるように推進していきたいと改めて感じた。

